

## 浄瑠璃人形芝居福地座「金五郎人形」

明治時代、福岡県には人形座が30余り存在していましたが、現在活動しているのは、伊加利人形芝居、今津人形芝居、八幡古表神社の神相撲、八女福島灯笼人形、旭座人形芝居の5カ所だけになっています。直方にも幕末から昭和15年ころまで、旧福地村に人形浄瑠璃の福地座がありました。常舞台はなく、農閑期に掛け小屋での上演でしたが、最盛期の明治30年ころには、馬車3台に衣装や頭などの荷を積み、黒崎、小倉、若松、田川、行橋方面、遠くは朝鮮半島まで興行に出かけていました。座員は30人程で人形、浄瑠璃をそれぞれ稽古し、得意なものをやっていました。四国の阿波の浄瑠璃人形芝居の流れをくみ、中津の北原人形芝居から師匠を招き、練習をしていたそうです。福地村は地主の旦那衆が多く、豪華な衣装や名人が手掛けた人形の頭を揃えていました。現在残されている人形の頭は15点中7点に阿波の名人天狗久の銘、3点に中津の吉田久吉の銘が入っています。

嘉穂町誌には、大正時代初期のころ、口上を述べながら人形を操る「金五郎廻し」の巡業が来て、とても人気だった、との記述があります。「金五郎人形」とは狂言回し役の人形のこと、そこからあやつり人形のことを指すようになりました。「上境 私たちのふるさと」では古老たちの思い出が記されています。



◆ 「福岡県の人形芝居」王塚装飾古墳館/編  
NL777ケ

◆ 「上境 私たちのふるさと」  
直方市上境公民館/編 N219ノ

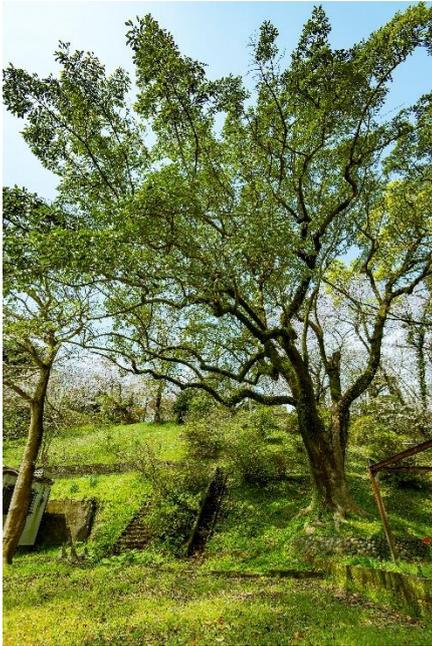
◆ 「直方市史下巻」NL219ノ

## 筑豊の民話 ー七夕姫ー

戦国時代、豊後の大友氏と中国地方の大内氏との勢力がぶつかる筑前の地は戦場となりました。「上境 私たちのふるさと」には朝日新聞ふるさと筑豊の記事の引用として、1540年ころ大友勢が直方に攻め寄せ、多賀神社を焼き払い、大内氏の家臣だった高取城の毛利鎮実を攻めました。1万3千人もの兵に囲まれ落城の覚悟をした鎮実は、一人娘の姫に城を出て、同じ大内氏の家臣であり、母の実家がある宗像へ落ちのびるように説きました。姫は身重の体で山を下り、福地村上境の七夕にたどり着きましたが、息も絶え絶えの様子でした。見かねた七夕の村人たちは温かくかくまい、おかげで姫は無事、宗像へ逃れ出産しましたが、「七夕の地に墓を建ててほしい」と遺言し、亡くなりました。現在ある墓は、嘉永6年に建て直され、年に一度七夕の日に、姫の霊を慰めようとおこもりをしている、と書かれています。しかし「旧福地村誌」には、姫は追っ手に迫られ、七夕の地で自害したため、まつっているとあります。史実は不明ですが、姫を哀れに感じた村人の優しさが感じられる話です。

「上境 私たちのふるさと」 N219ノ 「旧福地村誌」NL219ノ

【基本情報】 ◇天然記念物 《所在地》直方市直方 674-20(多賀公園) 《指定年》1960年8月



多賀神社の裏手にある多賀公園内の「<sup>おがたまのき</sup>黄玉樹」とは、モクレン科に属する常緑喬木で、暗灰緑色の樹皮と長楕円形でつるつるした葉をもつのが特徴です。葉は香料として使用され、材木は器具材料や床材として利用されています。

「おがたま」という呼び名は、この樹木の葉が元々は神霊を招くための供物〈<sup>おきたま</sup>招魂〉であり（古来より神前に供える榊はこのオガタマのことを指すという説もある）、古来は「<sup>おがたま</sup>招霊の木」と記していたからとも、甘い香りのする玉のような実がなるからとも伝えられています。

地上1mあまりのところから2本の主幹に分岐しており、樹高18m、根回り12.9m以上もある大木で、これほど大きくなる黄玉樹も珍しいそうです。春には、白色の花をつけ、香りがとても良いのだといいます。あたたかくなってきた春、多賀公園まで足をのばして、ぜひ眺めてみてください。

参考：「直方市バーチャルミュージアム」 <http://nogata-virtualmuseum.jp/chronology.php>  
 「福岡県の天然記念物」 N462ケ

## はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。  
 郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

『切り絵北九州百景 前編 50景』

小菅 績憲//著 N291キ



北九州市小倉北区の切り絵作家、<sup>こすげのりかず</sup>小菅績憲さんが、未来に残したい北九州の風景を切り絵とエッセイで紡いだ1冊。

自転車や電車に乗って目にした、北九州市内各所の魅力的な場所を題材に、バランスの考えられた白と黒のコントラストで表現しています。

最近では『地球の歩き方』の全国初の“市版”が出たことでも話題になっている北九州市。白黒の街並みをもとに、北九州の街を歩いてみるのはいかがでしょうか。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがたま内  
 TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902